

でした。

そのころは、下郷町しもごうまでの鉄道はまだ通っていないだったので、伊策はまず会津若松まで、約四十キロの道を歩いて行きました。会津若松から東京までの汽車も、速度もおそく、約十時間以上かかりました。

やっと東京へ着いたものの、文部省はどこにあるのか、まったくわかりません。桜の花も散って暑さを感じるようになった東京の街まちは、関東大震災かんとうだいしんさいのあとの復興ふっこうをめざして、にぎやかさをみせていました。

あちこちで道をたずねながら、竹平町たけひらちまうにある文部省にやつとたどりつくと、まだバラックのような仮かりの建物でした。すぐそばの皇居こうきよのお堀の水に、ようやく芽めふいたばかりの柳やなぎの枝えだがきれいにうつつていました。

まず、図書局としよきょくに行つて「珠算関係の先生にお会いしたい。」とのべてお会いした先生は、伊策の説明をきくと「珠算の教科書を変えるつもりはない。」と、ま